

第4回小平市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会会議事内容

■日時及び場所

日時：令和6年1月30日（火） 10:00～11:00

場所：小平市役所 6階 大会議室

■参加者

小平市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会委員：8名

事務局：教育指導担当部長兼指導課長、文化スポーツ課長、教育施策推進担当課長、地域学習支援課長、指導課長補佐、指導主事、指導課主事

■傍聴者

3名

■配布資料

資料1 小平市立中学校部活動地域連携・地域移行検討委員会検討結果報告書(案)

■議事内容（次第に沿って記載）

1 議題

（1）報告書の内容精査

○次第の1、「報告書の内容精査」について報告書(案)の「1 背景」から「4 検討の経過」までで何か意見等はあるか。（委員長）

→部活動地域連携・地域移行が教育の場にとどまらずに小平市が全庁体制で取り組み、少しでも実現に向けて進めてほしい。小平市では、「小平市第四次長期総合計画」の中で、基本目標Ⅰに「ひとづくり」を掲げ、ひとの成長を見守っていくことをとても大切にしている。まさに今回の報告書は基本目標Ⅰを達成するための一つの手がかりになってくると思う。生涯にわたる学びの機会の充実というところでは部活動は生涯にわたってスポーツや文化に関わっていくスタートにあたる。子どもたちの豊かな生活や人生にとっても大きな役割をもつものなので、これを教育の話だけにするのではなく、小平市のひとづくりの視点をもって全庁的に各部署、それぞれが当事者意識をもって取り組み、部活動地域連携・地域移行が次代を担う子どもたちのためになるようにしてもらいたい。（副委員長）

→部活動地域連携・地域移行は子どもたちのためである。具体的には、本校では校長と部活動の部長が懇談をする場を設けている。その場では、様々な要望を受けており、イラスト部は昨年まで週3回の活動だったが週2回になってしまったことから週3回の活動にできないか要望があった。一方で教員としては週3回の活動は過剰な負担になってしまい難しい状況であった。また、ダンス部をつくりたいという相談も受けた。部活動のニーズがあるのであれ

ば活かしてあげたい気持ちもあったが、管理職としては教員に負担が大きい部活動を無理に任せるのも難しく、部活動指導員がいるのであれば作ってあげたいと思う。この辺りが部活動地域連携・地域移行を進めば、子どもたちの様々なニーズに応じて、充実した放課後の活動ができるのではないかと思う。

間接的な話として、現在、学校には多くの地域の方が入っており、学習補助員や学生ボランティア等、授業支援や部活動支援等をしてもらっている。このような仕組みが無ければ学校は成り立たない。

魅力ある学校づくりを各校進めており、本校では不登校対策に取り組んでいる。別室に登校してくる生徒にいかに関係支援ができるのか、また生徒が登校したくなる学校にするにはどのようにすればいいのか、様々検討しているが、そこで新しい取組をするとなると、教員たちへの負担が増している中では難しい。ただ、沢山の地域の方が学校に入ることによって教員でなくてもできる業務は地域の方に任せることはできる。例えば不登校対策、個別の学習指導や教育相談等の教員が本来取り組むべきことで、かつ教員にしかできないことに教員の業務を注力させることはできる。

教員が負担に感じていて、地域の方でも担えるというものになると部活動が一番効果的ではないかと思う。そういう意味では中学校として喫緊の課題であり、少しでも早く一人でも多くの部活動指導員が付き、市として休日に地域クラブ活動ができるような場を設定してもらうことは、教員が教員しか取り組めないことに注力でき、生徒たちのためとなる。

また、何かしら動き出さないと進まない。やってみないと分からないこともあるため、試行し、その後、検証するということを来年度以降行っていく必要がある。

検討委員会は今年度までということだが、市には、来年度以降は試行と検証をするための検討会を立ち上げてもらい、学校も校長会等を通して、部活動の精選や合同部活動等について積極的に考えていきたいと思っている。

行政と学校が連携していけたらと思っている。(委員)

→地域移行の受け皿になってくれる潜在的な人材は沢山のいるのではないかと思う。例えば、シニアの方、指導に関わっている方や大学生等であるが、これらの人たちに対して現状アプローチができていないのではないかと感じている。

私も外部指導員の経験があるが、その時は狭いコミュニティのつながりで外部指導員になった。地域移行の人材が必要とされているということはあまり知られていないのではないかと思う。そういう人材を必要としているということをもっと広く周知をしてもいいのではないか。(委員)

→今までは個人的なつながりで地域人材を確保してきたが、潜在的にはもっといるはずで、人材募集の周知が徹底されていると言い難いということだと思う。そうすると市として人材確保の仕組み・制度として構築していく必要があるのではないかという意見だったと思う。地域人材に関わる部署の見解を確認したいが事務局はどう考えるか。(委員長)

→現状、部活動ということではなく、地域の中で様々な形での学校支援の取り組みは進めているところである。

今回、新たな方向性として部活動の地域連携・地域移行を掲げるようになるため、広く周知を図っていくことを考えている。(事務局)

→地域移行を進めるにあたってスポーツ団体や文化団体との協力は必要になってくると思うが、市ではそのような団体との付き合いはどうか。(委員長)

→文化については文化振興財団を設立している。文化スポーツ課では、文化については団体とのつながりというよりは個人との付き合いが多いという状況である。文化協会に加盟している団体については文化振興財団の方で把握しているのではないかと思う。スポーツについては体育協会と定例的に会議を設けており、今後、加盟団体にも協力を仰げないか周知を行っていく必要があると感じている。

また、学校開放事業ということで小学校を借りて、教育活動に支障のない形で使用させてもらっており、アマチュア団体等に貸し出している。育成というよりは自分たちが楽しむといった方々が多いように見られるが、そういった方々にもお声がけして潜在的な指導者に届くような形で周知・PRなどが必要なのではないかと思っている。(事務局)

→小平市体育協会では、文化スポーツ課職員と毎月一回の「文化スポーツ課定例会」を設けて、スポーツ関係の情報交換を行っている。また、体育協会に加盟している33団体の加盟団体の代表委員とは文化スポーツ課職員を含めて「体育協会代表委員会」を年5回開催し、情報交換を行っている。ただ、これまでに地域連携・地域移行についてはあまり話題に挙がってきていない。そのため、今後、検討委員会の報告書が出来上がった段階では、さらに議論を推し進めていきたいと思う。(委員)

→参考までに国分寺市の軟式野球の部活動地域移行団体を紹介したい。

国分寺市でも野球部が成立できなくなっており、合同部活動も検討しているがさらに一歩進めて地域移行を考えて軟式野球の地域移行を進めている。

協賛団体も入っており、月謝も4,000円で保護者の方でも許容できる程度の金額である。先進的事例としては興味深いのではないか。(委員長)

○「5 検討委員会からの意見」について、意見等はあるか。(委員長)

→「(1) 指導者確保」のところで広報をしっかりしていくことが大事だと考える。例えば、市報の一面で周知を行うなどインパクトのあることをしないと市民の目にはつかない。また、小平市の姿勢を見せるという意味でも広報の仕方については検討していくべきではないか。(委員)

→「(1) 指導者確保」についてだが、理由があって退職をし、意識的に何かしなければいけないと感じつつも、就職までには至らないという若い人が私の周りにも一定数いる。しかし、このような人達が市報に目を通す機会は多くはないのではないかと思う。そのあたりの周知の仕方について検討する必要があるのではないか。若い方の中には美術大学とか音楽大学出身で日中は空

いている方もおり、自分の出身中学校に何か力になりたいという気持ちがあるような方がいれば、そういう方々を取り入れていくのもいいのではないかと。
(委員)

→6ページの下から8行目「可能な限り段階的に速やかに希望する全ての学校に部活動指導員を増員・配置を検討する必要がある。」とあるが、この表現を入れてしまうとトーンダウンしてしまうと思う。意見はあるか。(委員長)

→部活動指導員となると予算措置が必要となる。一方、外部指導員やボランティア等の地域の人材を入れても指導の補助はしてもらえが、教員の代わりにならない。土日の活動や大会引率を教員の代わりにやるには部活動指導員が必要となり、予算措置が必要となるが、予算に限りもあるため予算の範囲内で配置するという事で「可能な限り」という文言が入っていると思う。

実際、教員の全員が部活動を負担だと思っているわけではなく、部活動をやりたくて教員になった者もいるため、そのような教員にとっては部活動の指導は生きがいや、やりがいである。そういう状況もあることから無尽蔵に部活動指導員を配置してほしいというわけではない。(委員)

→体育協会の中にも外部指導員として活動している方もいるが、話を聞くと謝礼の月額上限が定められているようである。謝礼以上の指導回数自体には負担を感じないようだが、指導員の善意の上に成り立っているところもあるようだ。体育協会等の立場からすると、もう少し予算面での環境を整えてもらえるとさらに良い指導が出来るのではないかとと思われる。

→「可能な限り」という文言は極めて積極的にという意味があることとして残すということでもいいか。(委員長)

→異議なし(委員全員)

→報告書のため「試行と改善を繰り返す」という文言が入ってもいいのではないかと。部活動地域連携・地域移行は現状全国的に模索しているような状況であるため、報告書を通して、小平市では試行と改善を繰り返すことを市民に知ってもらった方が市民からも理解が得られるのではないかと。また、子どもたちの意見を聞きながら部活動のより良い在り方というものを模索していくのがいいのではないかと。本検討委員会で実施したアンケートでも子どもたちの意見を聞いて様々なことが分かったこともあり、子どもたちの意見を聞くということは外せないのではないかと。 (委員)

→「試行と改善を繰り返す」、「子どもたちの意見を反映していく」これらの表現を報告書に入れていくということでもいいか。(委員長)

→異議なし(委員全員)

→部活動の費用について、小学生の保護者と中学生の保護者で感じ方が異なるようで、中学生になると自分の意志で部活動を選び自主性を尊重している面もあり、中学生の保護者では、月に数千円程度、年間で1万円前後の部費を支払ってもいいと思っている方は多いようである。加えて諸々の費用が部費として集約されたり、専門性の高い指導者が付くのであれば、部費が上がっても構わないという保護者もいた。

しかし、小学生の保護者に聞いてみると、まずは部活動の手伝いをしなくてはいけないのか否かで部費の金額を気にする方もいた。また、子どもが部活動を選ぶ際、部費で決めるようなことになるのではないかとという心配の声もあり、部活動にかかる費用について一律であってほしいという公平性を気にする声が多かった。小学校の保護者の場合、保護者の視点で部活動地域連携・地域移行を捉えているようである。中学校の保護者の場合、子どもの視点で捉えているようであり、両者に考え方の違いがある。事務局には、そのあたりを考慮に入れて部活動地域連携・地域移行を進めてもらうといいのではないか。(委員)

→最近では気にする人はあまりいないが部活動に入らないと高校の入試に影響するという話があるので、保護者の中には、事実上の強制で部活動をやらされて費用負担が発生することに納得しない親も出てくるのではないか。(委員)

→以前と比べてかなり減ったが、私立高校の推薦基準に中学部活動に関する文言を残しているところが現在でも若干ある。(委員)

→保護者の立場で本検討委員会に参加する中で地域連携・地域移行の必要性について理解したということもあるため、他の保護者も同様に地域連携・地域移行への理解に時間がかかるのではないかと思う。

しかし、一保護者としては今までの部活動が教員のボランティア的な活動に支えられていた面もあり、それが部活動地域連携・地域移行によってある程度、費用負担が増えることについては許容できる。

先ほどの国分寺市の例では4,000円の費用負担ということではちょうどいい金額ではないかと思う。部費が月1,000円や2,000円のイメージで、そこに2,000円、3,000円程度増加しても許容できるが、これが月1万円になると負担が増え、家庭によっては部費を理由に入部をあきらめる子どもも出てくると思う。(委員)

→報告書の「5 検討委員会からの意見」の「(4) 今後の継続的な検討」の中で「今後は教育委員会事務局と市長部局が連携・協働し一体となって…」という文言があるが、これは市長部局の中に小平市体育協会や小平市文化振興財団も含まれた意味なのか。教育委員会と市長部局が連携・協働するのは当然であって、広い意味で様々な団体と連携・協働するものではないのか。教育委員会と市長部局だけでは限界があるため、そのあたりの表現を付け加えるのはどうか。(委員)

→この辺りには、例えば、地域の関連団体など新たに文言を加えるということかどうか。(委員)

→異議なし(委員全員)

→報告書の「5 検討委員会からの意見」の「(2) 外部指導者の質」の項目の「質」という表現が気になる。「質」という表現になるとその指導者自身の中身を問うているように感じるが、内容を確認すると外部指導者の指導力について触れられており、項目の名称を改めるべきではないか。(副委員長)

→事務局としても「質」という表現として適切なのか、また、分かりづらく感じていたところだが、これまでの検討委員会での資料でこの表現を使用しており、そこの整合性を考え、この表現を使用する必要があると考えた。

報告書は広く一般に示されることからここにいる委員の皆様も「質」という表現に違和感を感じているようであれば、表現を変える。(事務局)

→報告書の「4 検討の経過」の「(3) 休日の部活動地域移行について」の「地域移行の進め方について」の4行目の「指導員の教育的指導の資質について分からない。」との文言が入っているが、発言の趣旨としては、技量のある人材を派遣することはできるが、心の方の教育までできる人材なのかは小平市体育協会で見極めることが難しい。ということである。「5 検討委員会からの意見」の「(2) 外部指導者の質」の「質」と一緒に表現については検討してほしい。(委員)

→そのあたりについて、「4 検討の経過」の「(2) 平日の部活動地域連携について」の「教員の代わりとなって部活動指導を行う部活動指導員について」の※3で説明を入れており、また、「学校が信頼できる人物か確認してくれている点」という表現もあることからそのあたりとの整合性を考えながら検討してほしい。(委員長)

○最後に部活動地域連携・地域移行で小平市に期待することを各委員からお願いしたい。(委員長)

→予算と広報力をつけていただきたいと思う。保護者の中には、学校の先生に部活動の指導をしてほしいと考える方もいる。教員に部活動の指導をしてもらった方が保護者としては安心できるし、単純に部活動指導を行う教員に時間外勤務手当を支給すればいいと考えている方もいる。ただ、ここまで検討委員会で検討してきたため、不公平感の出ないような形で予算を確保し、また、潜在的な指導者を獲得するためにも広報力をつけてもらえたらと思う。保護者の中には情報を持っていたりするが、それを小平市に伝えるハードルもある。そのあたりを小平市が拾い上げてくれると幅広い意見が取り入れられるのではないか。(委員)

→第2回検討委員会の際、アンケート結果を拝見させてもらい、中学生になって新しいスポーツや活動をしている子どもたちが多いたと感じた。部活動地域連携・地域移行を進めるにあたって、新たな活動をしたいと考える子どももいれば、結果を残すことが第一と考える子どももいると思う。どちらのニーズも子どもたちの気持ちだと思うため、どちらのニーズにも応えられるような体制になるといいのではないかと思う。(委員)

→小平市文化振興財団で管理している小平市民文化会館は施設の性格からすると普段の練習の場というよりは発表の場という位置づけになる。同様に管理している小平ふるさと村も中学校の箏曲部の発表の場となっており、発表の場の提供という面で我々も地域連携の一部に関わらせてもらっている。来年度、新たに中学校の演劇部の発表の場を小平市民文化会館ですることになり、

これも地域連携の取り組みになるだろうと思う。

また、出前コンサートとして小学校の方にも出向いており、今年度は7校で行った。これらの取り組みを通じて、幅広く試行と改善を繰り返しながら主体となって進められるところは進めていきたい。(委員)

→本検討委員会としての活動終了後も小平市、小平市文化振興財団と小平市体育協会等、様々な団体と連絡・調整しながら引き続き進めてもらいたいというのが小平市に対する要望である。(委員)

→校長として地域の行事等に参加して、ふるさと小平で学ぶ子どもたちを応援したい市民の方々が沢山いるということが改めて分かった。学校への敷居や信頼等、様々な学校の課題を解決していかなければいけない問題も沢山あると感じた。

子どもたちを応援したいが学校だと抵抗がある人もいたことから、透明性の高い学校づくりを進めることで地域の方々から部活動に協力しようと思ってもらえることが大事だと改めて感じたところである。そのような中で小・中連携は小平市の教育の目玉でもあるため、部活動地域連携・地域移行に小学校もしっかり関わりながら小学校の校長会とも連携をさせていきたいと思う。

様々なご意見をいただきながら部活動地域連携・地域移行の人材発掘については私自身も広報をしながら、可能な限り中学校部活動の発展・子どもたちのやりたいことにつながることをしていきたい。(委員)

→小学校、中学校、高校の12年間の学びと言われていて、私も小平南高校と国分寺高校の学校運営協議会の委員をやっている。小平に限らず、子どもたちを取り巻く地域として子どもたちのために魅力ある学校づくりをしていくことが最終的な目標となっている。

小平市に望むことは動くことである。実践をしなければ意味がない。報告書をまとめたとしても実践をしなければそれは教育にならない。

また、試行と改善という形で進める。そのために更なる検討をする組織をつくり基盤をつくる必要がある。(委員)

→東京都内で部活動地域連携・地域移行について検討委員会を設け、時間をかけて報告書にまとめている自治体は現在のところあまりないのではないかと。小平市は、部活動地域連携・地域移行について検討委員会を立ち上げ方向性を示したということを広く市民に向けてアピールをしてもらいたい。

他の委員から若い人の掘り起こしについて話があったが、私の大学でもインスタグラム等のSNSを使って、様々な学生の活動を支援したり広報したり等しているため、このようなプラットフォームを活用して、小平市の潜在的な人的財産である若い人たちに部活動地域連携・地域移行に興味をもたせていくことが大切なことかと思う。

また、どうしても自分の経験で物事を判断してしまうが、子どもの意見を聞いて、部活動地域連携・地域移行を進めていくことは大切なことである。

それを踏まえて本報告書を形にしてもらいたいと思う。(副委員長)

→なお、報告書については、本日、委員の皆さんから修正や意見等をいただいた

が、その直しについては委員長に一任ということで良いか。(委員長)
→異議なし(委員全員)

連絡事項

○特になし

以上